

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡB(AB202)			担当教員	安部直樹・嶋内麻佐子 ・※柳井駿平・※龍美穂子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(後半)の修得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法やグループの中でのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。さらに茶道具作り(茶杓作り、袱紗作り、茶巾作り)着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習することで茶道の芸術性を理解する力を養う。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「濃茶点前」で使用する道具の名称や扱い方を理解し、炉と風炉の時期の違いを類別できる。				ペーパーワーク	10%	
情報収集、分析力	茶道具作り(茶杓作り、袱紗作り、茶巾作り)着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙の体験学習をすることで茶道の芸術性を理解できる。				課題レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、7～8名のグループの仲間と協力できる。				授業態度	20%	
多様性理解力	茶道実技である「濃茶点前(後半)」が実践できる。				実技確認	60%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>実技確認の成績を60%とし、点前の流れがスムーズにできているか、道具の扱いが理解されているかを確認する。茶入、仕服の扱い、柄杓の扱いについて、流儀の形を理解しているか等から評価する。授業態度については20%とし、稽古への積極性を評価する。毎回の授業内容を記録カードに記入し確認する。ペーパーワークは10%とし、2回目と8回目と13回目に実施する。課題レポートは、ポートフォリオを利用して、オプションの授業への取り組みと感想から評価する。課題レポートやペーパーワークについては、採点を行い学生に返却する。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>7～8名に分かれて、グループワークを通して道具の扱い(茶入、仕服の扱い、柄杓の扱い)を学び、濃茶点前(後半)を完成させることを目標とする。オプション授業では、茶道具作り(茶杓作り、袱紗作り、茶巾作り)着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習を通して芸術を理解する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。オプション授業代は、500円が別途必要である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 81～93頁</p> <p>参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年)</p> <p>指定図書：小山茂樹著『茶壺に追われて一ほっこり宇治茶にこぼればなし』淡交社(2009年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶室での貴重品の取り扱いが自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。</li> <li>・学習として、茶会と茶事の仕組みについて『観光の地平』を読み、理解しておくこと。</li> <li>・茶道に関する茶花・道具・着付けなどにも関心を持ち、日常生活の中で活かす努力をして頂きたい。</li> <li>・日常生活で花を活ける、着物を着るなどの実践を積極的に行うこと。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・濃茶点前（前半）復習①	濃茶点前（前半）の復習。	講義概要（シラバス）を確認する。 教科書 pp. 81～89 を読み、予習・復習をする。
2	・濃茶点前（前半）復習② ・ペーパーワーク	濃茶点前（前半）の復習。	教科書 pp. 81～89 を読み、予習・復習をする。
3	・濃茶点前（後半）見本	濃茶点前（後半）の見本を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 89～93 を読み、予習・復習をする。
4	・濃茶点前（後半）稽古①	濃茶点前（後半）の復習。	教科書 pp. 89～93 を読み、予習・復習をする。
5	・濃茶点前（後半）稽古②	濃茶点前（後半）の復習。	濃茶点前（後半）の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
6	・濃茶点前（後半）稽古③	濃茶点前（後半）の復習。	濃茶点前（後半）の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
7	・濃茶点前（後半）稽古④	濃茶点前（後半）の復習。	濃茶点前（後半）の完成を目指し、自主的な稽古をする。
8	・濃茶点前（後半）稽古⑤ ・ペーパーワーク	濃茶点前（後半）の復習。	濃茶点前（後半）の完成を目指し、自主的な稽古をする。
9	・点前確認 （濃茶点前後半）	濃茶点前（後半）がどこまで理解されているか、確認する。	濃茶点前（後半）の完成を目指す。
10	・点前確認の振り返り ・濃茶点前総復習	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。 濃茶点前の復習をする。	点前確認を振り返り、自己評価する。 教科書 pp. 81～93 を読み、予習・復習をする。
11	・オプション授業①	オプション方式で授業内容を選択する。茶道具作り（茶杓作り、服紗作り）や、着付け、花生け、和菓子作り、絵手紙などの授業内容のうちから1つもしくは2つを選び、体験学習をする。	予習・復習については授業内で指示する。
12	・オプション授業②	オプション方式で授業内容を選択する。茶道具作り（茶杓作り、服紗作り）や、着付け、花生け、和菓子作り、絵手紙などの授業内容のうちから1つもしくは2つを選び、体験学習をする。	予習・復習については授業内で指示する。
13	・炭点前（炉）見本 ・濃茶点前総復習 ・ペーパーワーク	炭点前（炉）の見本を確認し、概要を理解する。 濃茶点前の復習をする。	教科書 pp. 81～93 を読み予習・復習する。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。	祝儀袋のマナーを予習・復習する。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園創設者、安部芳雄（松芳）氏の遺徳をしのび献茶式を行う。供養のことや仏事について講義する。	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを予習・復習する。